

令和 6 年度 第 2 回丸亀市産業振興推進会議 全体会議 (会議録)	
日 時	令和 7 年 2 月 10 日 (月) 午前 10 時 30 分～午後 0 時
場 所	丸亀市市民交流活動センターマルタス ROOM3・4
	(丸亀市産業振興推進会議 委員) 22 名中、16 名出席 荒川委員、内海委員、川田委員、桑田委員、小山会長、杉尾副会長、 筒井委員、豊島委員、西川 平二委員、馬場委員、藤井委員、古沢委員、 松下委員、松永委員、眞鍋 宣訓委員、眞鍋 有紀子委員、(五十音順) (丸亀市産業生活部) 林部長 (丸亀市産業生活部 産業観光課) 平尾課長、逢坂副課長、村山商工労政担当長、本田観光交流担当長、 永原主任、請川副主任、三附主事 (丸亀市産業生活部 農林水産課) 新名副課長、造田忠彦担当長 (まなび文化課) 廣瀬担当長 (丸亀市農業委員会) 大西次長
欠席者	綾野委員、柴田委員、西川 正則委員、濱本委員、福田委員、矢野委員 (五十音順)
議 題	1. 挨拶 (林部長) 2. 新委員紹介 3. 議事 【専門部会】 (1) 第三次産業振興計画実施計画の中間実績について 【全体会】 (2) その他 4. 周知事項等

会 議 の 概 要

1. 挨拶

丸亀市産業生活部 林部長より挨拶。

小山会長より挨拶。

2. 新委員紹介

新委員の荒川委員の自己紹介。

(事務局)

本日の進行と資料の確認。

ここからは小山会長に議事進行をお願いしたい。

3. 議事

(1) 第三次産業振興計画実施計画の中間実績について

(事務局)

第三次産業振興計画実施計画の中間実績について各部会で説明させていただく。

(小山会長)

今から各部会で審議してもらった後、各部会長からの報告をもって部会間で情報共有を図りたいと思う。

【各委員、各部会に分かれる】

【各専門部会で意見交換・発表】

(農業・水産業部会、松永委員)

漁業・JA 関係の方が入っているが、今回も出席されていなかったものでデータの部分の十分な話は出来なかったが、市の方から色々な情報をもらってまとめていった。

担い手の部分については数字的には去年と変わらないが、計画内に法人の設立数という目標がある。今年度は設立 0 であったが動きが出ており、新年度からは法人化が一区切りを迎えると思っている。ただ現状法人化の動きで言うと、議題にも出たが、法人を設立すると経理面等色々難しいところもあり、法人化、法人化と言いながら中々進んでいない状態である。法人化のメリットを申し上げると、法人化すること、あるいは認定農家さんを集約することで国や県、市から色々な助成金を得られるというメリットがある。実際に売上面が増えたということはないが、担い手が麦を作った際に国からは基盤整備をしておけば大きな補助がある。一般の農家の方がやると麦 1 袋 500 円から

1,000 円という時代に約 7,000 円程度の補助があるというメリットもある。そのような中で進めていっており、現状は来年 1 法人が立ち上がる予定である。次に、座談会への出席・参加回数が倍以上に増えているが、これは現在市で策定している地域計画というものがあって今年の 3 月までに策定するものとなっており、昨年 4 月以降はその地域計画を策定するための研修会や周知会等が 10 回程あったため、計画目標 10 回に対し 21 回と増えている。また、アスパラガスや桃の生産の目標値についての話もあった。最近、確かにアスパラガスや桃の生産量は減っている。これには色々な理由があるが、1 つは農家の高齢化が 1 番の理由だと思う。新規就農される方も中々見当たらず、今の状況では段々と減っていく傾向になっている。高齢化すると作業自体が厳しいもので、桃になると山間部の傾斜地で作業することもあり、段々と平坦化して継続してはいるが高齢化によって辞める方、あるいは面積を縮小する方が多いという状況である。また漁協関連については十分なデータが把握出来なかったが、計画に記載のとおり、島しょ部と陸地で各漁協を中心にこのような状況となっている。最後に販路の拡充についての話の中で、桃にしても地元の特産物への十分な認識が出来ているのだろうか、我々の中では飯南の桃やさぬきの桃といえれば十分な認識があるが、これが例えば北海道に行った場合、飯南の桃の認知度はどんなものなのかということもある。地元の桃農家の話を聞くと、収量の問題がある。全体的にその要望に合うだけの収量が出来ていないのが現状であると思う。飯南の桃は去年は九州を中心に販売していたが、カメムシ等の影響もあり収量が落ち、数量の確保が出来ておらず、最近は販路を変えて近場のところに出そうかという話もある。そういうこともあり香川県の農産物全体の販路拡大・認知度が十分に出来ていないのではないかという話も出た。また、数字的な話ではあるが販路拡大においては、目標値 160 万に対して実績値が 46 万と非常に少ないとの話も出た。これは、ボートとタイアップした販売提供を予定していたが実際は出来なかったということで、実質はアンテナショップによる販売であった。これについては基本データから今後変えなければならないのではないかという話になった。

(工業・地場伝統産業部会、眞鍋宣訓委員)

我々の部会では、まず項目が一杯ある中で産業振興支援補助金について皆さんご覧になったことがあると思うが、この補助金には 15 の補助内容が掲載されており、そのうち 8 つがこの計画の KPI、目標数値としてそれぞれの申請件数が掲げられていることに着目し、この産業振興支援補助金がどのようになっているのかというのを教えて貰いながら審議をした。その結果、予算が全体で約 2,000 万円ついており、その予算を全て使い切っているということは分かった。ただ、それぞれの目標件数に大きく至っていないものもあれば、目標を大きく上回る申請を受付しているものもあり、これの

配分に問題があるのではないのか。また、早い者勝ちで申請されており、毎年同じ企業にいつているケースもある。この補助金は4月に始まり7月には使い切っており、申請件数を計画の目標に掲げて一生懸命活動しようとしても、1年の3分の2は予算が無い状況になってしまっていることが分かった。予算に上限が決まってくる事情があるとはいえ、この補助金のパンフレットを約2,000部印刷し企業に配布し、受付をしていくのは少し運用上に問題があるのではないかと思う。同じく提言として、1回申請した項目のものを翌年も同じ企業が申請するのは問題があるのではないか、本当に欲しがっている企業の機会損失になっているのではないかということも指摘させていただいた。また、全体として他の部会もそうだと思うが、評価基準がA～Eと評価されている中で、目標とする数値に対する評価なのか、1番最初に記載されている目的と取組み概要に対する評価なのかよく分からない。数値目標は達成しているのにE評価がつく場合もある。何故かと聞くと、全体としてこのように良かった為だと説明を受けるが、評価する我々としては内容が分からない。そこが上手くリンクしていないので評価方法にも問題があるのではないかと思う。主観的に評価するのならば、目的と取組み概要に対して相対的にどのように評価したのかというのであれば主観的に入ってきて分かるが、目標に客観的な数値が入っているのにもかかわらず、評価が主観的に行われると何が起きたのか分からないということをお話させていただいた。

(商業・サービス業・観光産業部会、西川平二委員)

非常に短い時間の中で、色々な話が出てきたように思う。1つは、先程にも眞鍋宣訓委員が話されたように中間評価の問題で分母と分子がどうなっているのか、Dだからと言われても頷けない、Aだからと言われても頷けない部分が出てくる。また、もう1つ全体的に出てくることではあるが、創業・廃業のどちらに対しても支援策があれば良いなという意見や、その中で商工会議所や商工会との連携も出てくるのではないかという話も出た。また、施策に対してもう少しメリハリをつけていき、その中で施策がどれも綺麗に横並びではなくて、重点施策とか1番から10番まで順番つけようという意見も出てきた。行政からすると非常に難しいことかもしれないが、重要なことは早く手を打ちたいし、時間的に余裕があるものについては後からでも良いのではないのかとなる。それに、今の目的と数字を見ていくと、もう少し部会を活用していきながら、それぞれが深掘りして委員さんの意見を十分に吸い上げて貰えるような動きをしていただけると非常に有り難いのかなと思う。

(小山会長)

3 部会の報告を受け、色々な課題が見えていたなと感じている。農業・水産業部会では、やはり後継者・担い手の不足が深刻であり、それに病害虫の影響、もしかすると熱波・暑さの影響もあるならば施策の在り方も再検討しなければいけないようになる。また、工業・地場伝統産業部会の眞鍋宣訓委員から非常に重要なご指摘をいただいていた。予算規模が約 2,000 万なのに既に 7 月に消化されていること、しかも C 評価になっているのはどういうことなのかということになってくる。パンフレットもしっかり配られており、必要であれば補正予算も組むことや、柔軟な予算執行も必要になってくるのではないかと感じた。あと、商業・サービス業・観光産業部会の西川平二委員からもご指摘があったように、評価の方法をどう分かりやすくしていくのかということと、部会毎に分かれた議論では時間が少ないということで別個にウェブ会を開催して議論を掘り下げていく必要も感じた。意見もかなり出てきて、議事録も取られていると思うので、集約していただき今後の対応もしっかりしていただければと思う。

(2) その他

(本田観光交流担当長)

丸亀ブランド「丸亀セレクション」認定状況の報告。

来年度の観光戦略プランの策定における部会開催へのご協力のお願い。

(小山会長)

今の認定制度の説明に対して何か質問等はあるか。

【各委員、意見なし】

4. 周知事項等

(事務局)

- ・ 議事録作成と送付の案内。
- ・ 午後からのブランド認定部会の周知。

(松永委員)

少し情報としてお伝えさせていただく。皆さんご承知のとおり、今、米価が非常に高騰している。生産者にとっては嬉しいことではあるが、消費者の方には大分ご迷惑をかけている。最近の情報としては、備蓄米の放出の動きがある。いくら放出されるか分からないが、一気に 100 万トン近い備蓄米を放出すると、米価がいくらになるのか、農家にとっては痛手となる可能性もあるが、今そのような動きはある。また、農業関係で話が

出ているのは備蓄米の放出以外にもう1つ、適正価格の形成の問題である。今農産品については米価を含め野菜その他が高騰しているが、実際の生産時の肥料等の価格を加えた価格形成を考えている。生産者はそれを参考にしないといけないし、売り手側もそれに対応した売値を決めていただかないといけないような動きがある。このような2つの動きがあるということ、皆さんも現場等で購入する際にもこのような動きがあるということをご認識いただきたいし、米価等に関しても適正な販売価格で消費者に届くように願っている。情報としてお伝えさせていただいた。

午後0時閉会

(以上)